その他告示

○外務省告示第百三十四号

国際連合安全保障理事会決議第千五百九十一号に基づき設立された制裁委員会が令和六年十一月八日に発出した情報に基づき、同決議３（ｄ）及び（ｅ）の規定に定められた措置の対象となる個人を指定する件（平成十八年外務省告示第三百七十四号）の一部を次のとおり改正する。

令和七年四月十一日

外務大臣　岩屋　毅

次の表により、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
（別表） １．～４．［略］ ５．アブデル・ラフマーン・ジュマ・バラカッラー Abdel Rahman Juma Barkalla （肩書）即応支援部隊（ＲＳＦ）少将・西ダルフール司令官 （生年月日）1969年１月１日 （出生地）東ダルフールのバール・エララブ（Bahr Elarab） （国籍）スーダン （旅券番号）Ｐ07834700 （身分登録番号）スーダン番号21052659309 （住所）不明 （リスト掲載日）2024年11月８日 （その他の情報）インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク：https://www.interpol.int/en/How-we-work/Notices/View-UN-Notices-Individuals#2024-78021 （指定の根拠）アブデル・ラフマーン・ジュマ・バラカッラー（ＲＳＦ少将・西ダルフール司令官）は、暴力行為や人権侵害を含め、ダルフールの平和、安全、安定を脅かす行動や政策に関与したため、指定される。ダルフールにおけるＲＳＦの攻撃は、激しい戦闘、人道的アクセスの欠如、市民や人権活動家を標的とする暴力により、何十万人もの市民を危険にさらしてきた。2023年５月及び６月、西ダルフールのエル・ジュネイナでは、市民社会の代表が、ＲＳＦとその同盟民兵による標的を絞った脅迫と殺害に直面した。2023年８月４日、南ダルフールのニヤラで、ＲＳＦの制服を着た武装集団が人権活動家で弁護士のアフメド・モハメッド・アブドラとその同僚のアダム・オメルを拉致、殺害した。2023年６月14日に殺害された西ダルフール州知事のカミス・アバカールが最後に目撃されたのはバラカッラーと一緒の時だった（専門家パネル報告Ｓ／2024／65パラ71参照。）。ソーシャルメディア上の動画では、アバカールがＲＳＦの兵士によって建物に押し込められる様子が映し出され、その数時間後には、アバカールの遺体とその周りで喜ぶＲＳＦの制服を着た兵士たちを映した２つ目の動画が公開された。2023年５月から11月にかけて、ＲＳＦとその同盟民兵は、西ダルフールのエル・ジュネイナとアルダマタの町で、少なくとも10回の市民に対する攻撃を行い、数千人を殺害し、13か所以上の集団墓地に埋めた。また、これらの攻撃の最中に女性や女児が強姦され、性的虐待を受けたと報告されている。	（別表） １．～４．［同左］ ［新設］